

2016年11月14日
株式会社東京エネシス

福島ガス発電から「相馬港天然ガス火力発電所」向け
長期保守(LTSA)と運転・日常保守(O&M)を受注

当社は三菱日立パワーシステムズ株式会社(MHPS)ならびに三菱電機株式会社と共同企業体を設立し、福島ガス発電株式会社(社長:石井正一、本社:東京都千代田区)から発電設備に係る長期保守(LTSA)と運転・日常保守(O&M)を受注しました。

これは福島県相馬港4号埠頭(福島県相馬郡新地町)に建設される出力合計 118 万 kW の天然ガス焚きガスタービン・コンバインドサイクル(GTCC)発電所向けで、商業運転開始は 2020 年の予定です。

福島ガス発電は、天然ガスによる火力発電事業の推進を目指して 2015 年 4 月に設立され、石油資源株式会社(JAPEX)、三井物産株式会社、大阪ガス株式会社、三菱ガス化学株式会社、および北海道電力株式会社の 5 社が株主となっています。

同社が建設する「相馬港天然ガス火力発電所(仮称)」は、JAPEX が相馬港に建設中の「相馬 LNG 基地」に隣接し、同基地から LNG(液化天然ガス)を気化したガスの供給を受けて GTCC 発電を行う計画です。

GTCC 発電設備は、ガスタービン、蒸気タービン、排熱回収ボイラー、発電機などで構成されるもので、ガスタービンでの発電に加え、その高温排ガスを利用してボイラーで蒸気を発生させ、蒸気タービンでも発電ができるものです。

当社は運転開始後、LTSA および O&M 契約に基づき、三菱日立パワーシステム株式会社、三菱電機株式会社と共同で、GTCC 発電設備の運転・保守・管理、定期点検工事、および運転の遠隔監視サービスなどに取り組んでまいります。

相馬港天然ガス火力発電所の計画は、国が 2014 年に決定した「福島・国際研究産業都市(イノベーション・コースト)構想」の中で「新たなエネルギーの創出(環境負荷の低いエネルギーの導入)」プロジェクトに位置づけられているものです。福島県浜通り地域(沿岸部)における産業基盤の再構築、新たな街づくりなどへの寄与が期待されています。

当社はこれまで、その時代を代表する水力・火力・原子力発電所ならびに変電所の建設・保守に取り組んでまいりました。当社は新しい分野にも積極的に取り組み、エネルギーとシステムのデザインとコンストラクションという事業活動を通じて「暮らしのより確かな基盤をつくる」ことにより、社会に貢献してまいります。

以上